

特集



主体性を育む 「問いづくり」

現在教育界では、主体的に学ぶ学生を育てるため、さまざまな形でアクティブラーニングが取り入れられています。もともと演習やグループワークの活用が盛んな看護教育ですから、この傾向自体は歓迎すべきものでしょう。ただ、たいていの学生は、「主体的な学び方」が身につけていないので、まず教員が、学生が主体性をもつためのお手伝いをする必要があります。

「問いづくり」は、小中高校の“探求学習”で多く取り入れられている教育技法で、文字通り、学生自らが問いをつくる学習法です。自分が興味をもっていること、知りたいことは何かを考え、それを疑問の形で表したうえで、自分で調べ、まとめ、説明するということまでもっていきます。教員から与えられた問いではなく、自分でつくり出した問いなので、より主体的に学ぶ力が養われます。

教員は、この方法を学び、学生に指導することで、学生の主体性を引き出すことはもちろん、自身が“教える”ということに関し多くの示唆を得ることができます。今回の特集で語られる「問いづくり」に挑戦し、学習における教員自身の主体性にも注目してみてください。